降誕前第７主日／聖餐式　　No. 45

主日礼拝

2026 年 11 月 08 日
午前 10 時 30 分

前奏

参集　（報告 ・ 紹介 ・ 予定）

招詞

主に感謝をささげて御名を呼べ。
諸国の民に御業を示せ。
主に向かって歌い、ほめ歌をうたい
驚くべき御業をことごとく歌え。
聖なる御名を誇りとせよ。
主を求める人よ、心に喜びを抱き
主を、主の御力を尋ね求め
常に御顔を求めよ。　　(詩編 105:1~4)

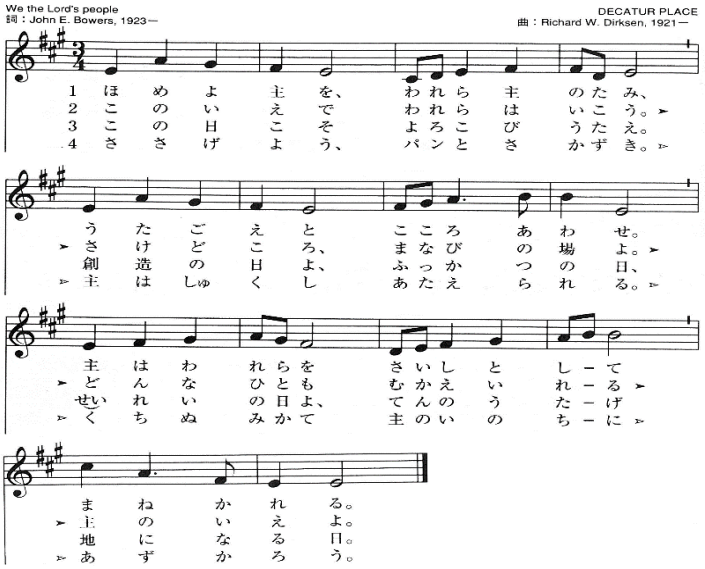
頌栄　26「グロリア」



信仰告白　使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、身体のよみがへり、永遠の生命を信ず。アーメン。

賛美　207「ほめよ主を」



祈祷

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのものなればなり。
アーメン。

賛美　32「キリエ・エレイソン」



聖書　創世記 18:1〜15　　旧約(新共同訳)P23〜P24

1 主はマムレの樫の木の所でアブラハムに現れた。暑い真昼に、アブラハムは天幕の入り口に座っていた。2 目を上げて見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。アブラハムはすぐに天幕の入り口から走り出て迎え、地にひれ伏して、3 言った。「お客様、よろしければ、どうか、僕のもとを通り過ぎないでください。4 水を少々持って来させますから、足を洗って、木陰でどうぞひと休みなさってください。5 何か召し上がるものを調えますので、疲れをいやしてから、お出かけください。せっかく、僕の所の近くをお通りになったのですから。」その人たちは言った。「では、お言葉どおりにしましょう。」6 アブラハムは急いで天幕に戻り、サラのところに来て言った。「早く、上等の小麦粉を三セアほどこねて、パン菓子をこしらえなさい。」7 アブラハムは牛の群れのところへ走って行き、柔らかくておいしそうな子牛を選び、召し使いに渡し、急いで料理させた。8 アブラハムは、凝乳、乳、出来立ての子牛の料理などを運び、彼らの前に並べた。そして、彼らが木陰で食事をしている間、そばに立って給仕をした。9 彼らはアブラハムに尋ねた。「あなたの妻のサラはどこにいますか。」「はい、天幕の中におります」とアブラハムが答えると、10 彼らの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずここにまた来ますが、そのころには、あなたの妻のサラに男の子が生まれているでしょう。」サラは、すぐ後ろの天幕の入り口で聞いていた。11 アブラハムもサラも多くの日を重ねて老人になっており、しかもサラは月のものがとうになくなっていた。12 サラはひそかに笑った。自分は年をとり、もはや楽しみがあるはずもなし、主人も年老いているのに、と思ったのである。13 主はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑ったのか。なぜ年をとった自分に子供が生まれるはずがないと思ったのだ。14 主に不可能なことがあろうか。来年の今ごろ、わたしはここに戻ってくる。そのころ、サラには必ず男の子が生まれている。」15 サラは恐ろしくなり、打ち消して言った。「わたしは笑いません でした。」主は言われた。「いや、あなたは確かに笑った。」

賛美　356「インマヌエルの主イェスこそ」



1 インマヌエルの　主イェスこそ
敵を破り　世に勝ち、
とらわれたる　人々を
解き放つ　救い主。
永遠のいのち、永遠の幸、
与えたもう　いつくしみ。

2 力強き　そのみ手は
悩む者を　励まし、
愛に満つる　み心は
頼る者を　見捨てず。
悲しみをも　痛みをも
憐れみもて　いやしたもう。

3 わが心よ、強くあれ。
わが魂、しずまれ。
戦いにも　たじろがず
波風にも　動かず、
其にいます　インマヌエル
とこしえまで　支えたもう。

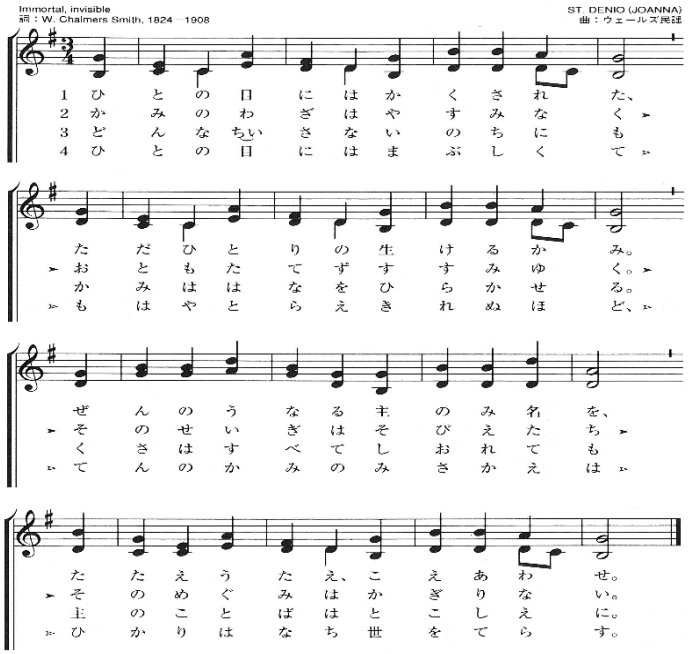
4 富と力、国もまた
父の神の　ものなり。
栄えと知恵　主に帰せよ、
ほふられし　小羊に。
わが内なる　ものすべて
ほめたたえよ、聖きみ名。

説教　「喜びの笑い、希望の笑い」

聖餐式　81「主の食卓を囲み」
(配餐前 1,2 節、後 3 節)



賛美　360「人の目には」



1.人の目には　隠された、
ただ一人の　生ける神。
全能なる　主の御名を、
たたえうたえ、声合わせ。

2.神の業は　休みなく
音も立てず　進みゆく。
その正義は　そびえ立ち
その恵みは　限りない。

3.どんな小さな命にも
神は花を　開かせる。
草はすべて　しおれても
主の言葉は　とこしえに。

4.人の目には　まぶしくて
もはやとらえきれぬほど、
天の神の　み栄えは
光はなち　世を照らす。

派遣

司式者　主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会 衆　わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン



後奏

司 式　金田　文雄
説 教　向井　希夫牧師
奏 楽　福原　之織